

第2回 伏木富山港長期構想検討委員会における主な意見

委員会開催日：令和8年1月13日（火）

分類	発言要旨
共通	県民が「ウェルビーイング」を具体的に思い描ける表現が必要。
	若い世代の意見も取り入れつつ、何を重点的に進めるのか考えるべき。
物流・産業	港湾の本質は物流機能にあり、物流の確保が最優先であるため、コンテナ、バルクの別を問わず集荷を図るべき。
	富山らしさは日本海側・対岸諸国との結び付きにあり、対岸諸国を意識した長期的視点が重要。
	貨物量の増加に対応するため、大水深岸壁の整備とヤードの拡張の同時に進行が必要。
	港湾は物流が成立してこそ価値を持つものであり、県の商工業政策と一体的に考えるべき。
	港湾は物流の結節であり、港湾機能強化に併せて背後の交通ネットワーク整備が重要。
	サーキュラーエコノミーの取組みにおいて、富山県の基幹産業であるアルミ産業や富山市エコタウンを活かした整備を進めるべき。
	水産物や食品の輸出を見据えたコールドチェーン整備が必要。
環境	30年後を見据え、3地区の取扱品目や機能分担を整理する視点も必要。
	港湾整備は自然環境・漁場と密接に関係し、環境アセスメントの明示が不可欠。
観光・賑わい	今後、エネルギー受入の港湾として重要性を増し、特に船舶輸送への期待は大きい。こうした役割を果たすためにも、港湾整備にあたり、水素等の荷役に対応した設備導入を含め、検討を進めてほしい。
	クルーズ船誘致を進めるには現状の貨物と旅客船の混在が課題。
	クルーズ船寄港に向けた伏木富山港のポテンシャルとなる観光地は、港から距離があるため、港近隣の観光地を磨いていくことが必要。
防災	大型客船受入れには大人数の輸送への対応が不可欠で、港と市街地・交通機関とのアクセス向上を関係部局と連携して検討すべき。
	災害時、港は物資輸送の結節点となるため、耐震岸壁や港湾機能強化は重要。
防災	港内の船舶交通安全と防災の観点から、将来に向けた港湾機能強化は不可欠。